

読者の皆さま  
調査室にご意見を  
お寄せください



平成 17 年 12 月 9 日発行  
アイヌ文化環境保全対策調査室通信  
アイヌ文化博物館ホームページ RANKO 月報  
<http://www.ainu-museum-nibutani.org>

環境調査室連絡先  
TEL (01457)4-6011  
FAX (01457)4-6012



## 持続可能な文化環境保全のあり方を探る



イオル文化大学で沙流川とアイヌ文化、歴史・現状・展望について報告と話し合い

11月26日(土) 沙流川歴史館レクチャーホールでシシムカ・イオル文化大学第14回講座が開講されました。今回は、「沙流川とアイヌ文化 歴史・現状・展望 その2」のテーマに沿って調査委員会のワーキングチームやアイヌ文化環境保全対策調査室の各班・グループがこれまで調査してきてわかったことを、歴史・現状・展望の3つの側面に分けて発表し、沙流川とアイヌ文化の関わりについて考えるという内容で活発な質疑と意見交換が行われました。この号では今回は、各班・グループの発表内容を一部紹介したいと思います。

(ワーキングチーム、ウタリ協会平取支部の発表内容については次号に掲載する予定です。)

### テーマ 「歴史」

#### データ集積班

【歴史】

北海道開拓記念館の山田悟郎氏が昨年、すずらん群生地付近で土壌調査を行った結果、17世紀ごろの地層から栽培種であるソバの花粉や、畑に生える雑草の花粉が検出されました。これらことから、この時期平取ダム建設予定地周辺で農耕活動が行なわれていた可能性があることが分かりました。

今後も、額平川流域のアイヌ文化の農耕を知る重要な手がかりや、さらには集落跡まで発見されるかもしれないと考えられています。



調査室からの発表

#### 聞きとり調査班

【歴史】、【現状】

平取ダム水没予定地周辺は、アイヌの人たちの信仰の中心であり山の神様として崇められるキムンカムイ(ヒグマ)などが生息し、その昔はイウォロ(狩場・生活資源確保の場)として利用されていたことから、アイヌの人たちの生活を支える動植物資源が豊富にあったと考えられます。また、信仰の対象とされてきた山や崖、湧き水、川の合流点などがあります。現在は、アイヌ文化に関わりの深いブクサ(ギョウジャニンニク)などの植物が豊富にあり、町内外の人々が採取に訪れ、先祖から伝わる祈りの場に今も礼拝する姿が見られることなどからも、平取ダム水没予定地周辺は現在もアイヌ文化との関わりが深い場所だと言えます。

### シシムカ・イオル文化大学 第15回講座の案内

次回シシムカ・イオル文化大学第15回講座は2月5日(日)の予定です。みなさんも沙流川とアイヌ文化について考えてみませんか? 当日受付しますので、気軽にお越しください。

場所: 本町ふれあいセンター(予定) テーマ: 「沙流川とアイヌ文化 歴史・現状・展望 その3」  
今回のアイヌ文化環境保全対策調査委員会は1月21日(土)です。

## テーマ 「現状」、 「展望」

### 食文化試行グループ

【実践発表】

食文化試行グループ・植物栽培試験グループが試食と講評の場を設けました。食文化試行グループは実際に聞きとりで教えてもらった調理法でいくつかの料理を作り試食してもらうことで発表に替えさせていただきました。聞きとり調査班やデータ班と連携をかさね、さまざまなアイヌの伝統的な食文化について調査をおこないました。今回使用した山菜は、主に平取ダム予定地より採取し、食文化試行グループで昔ながらの方法で保存した山菜を利用し、11種類の料理をつくりました。



食文化試行グループの発表



現地調査班の発表

### 現地調査班

【現状】

現地調査班では、今秋までの調査結果の概要を伝え、二風谷から水没予定地まで分布している動植物を、映像を用いて説明しました。水没によって景観がどのように変わるかの想定も写真を用いて説明しました。ヒグマに関するの痕跡調査の結果、水没予定地内はヒグマが四季を通して生活する場所であり、冬ごもりの穴が近くにある可能性が高いです。それに伴い、冬ごもり穴の特定などの継続調査とヒグマに対する安全対策の必要性を指摘しました。ダム建設予定地がアイヌ文化に関する動植物資源を豊かに有する地域であることから、水没による影響を最小限にとどめるためにも継続的なモニタリング（監視・評価）と保全対策が望まれることも提言しました。

### シミュレーション班

【展望】

シミュレーション班では、平取ダムの建設、運用による影響を予測するため、ダム予定地上流から下流、さらに二風谷ダムの下流についても川原、河床、河畔林の状況を調査しましたが、その結果をサケの視点で見た河川環境として、沙流川河口から上流までの遡上ルートにそって順に報告しました。沙流川・額平川は土砂堆積や川岸河畔林の荒廃が目立ってきています。また遡上を妨げる人工構築物がかなりあります。アイヌ文化にとって重要なサケが遡上しやすい環境を整えるためには川辺の植物再生や魚道整備など沙流川流域全体での保全対策が必要だと提言しました。

### 植物栽培試験グループ班

【展望】

平取ダムが建設されると多くの植物が水没し失われます。その中にアイヌ文化伝承に必要な草木も含まれているため、2003年度から試験栽培の畑を設け、種から苗木作りをしました。幼苗木1500本が育っています。また移植と栽培が可能かなどの試験もしました。こうした育苗をはじめアイヌ文化伝承に必要な植物を、沙流川と額平川の河川敷などを利用して確保しようと試みる対策案を提案しました。



シミュレーション班の発表



植物栽培グループの発表

## 中間報告書をお求めの方は・・・

『アイヌ文化環境保全対策調査 中間報告書』を皆様にご覧になっていただく為、電子データでの提供と製本した物の貸し出しを行っております。電子データは送付の場合送料込みで1,000円、直接受け取りにこられる方は500円で提供しております。

製本版の貸し出し期限は2週間といたします。詳しくは下記連絡先までお問い合わせください。